

WebSAM DeploymentManager

一括ファイル配置ガイド

目次

はじめに	3
対象読者と目的	3
本書の構成	3
1. 一括ファイル配置	4
1.1. イメージを作成、登録する	4
1.1.1. 一括ファイル配置のパッケージを登録する	4
1.2. シナリオを作成する	5
1.3. シナリオを割り当てる	5
1.4. シナリオを実行する	5
1.5. シナリオの実行結果を確認する	6
1.6. パッケージの実行結果を確認する	6
2. イメージビルダ	7
2.1. パッケージの登録/修正	7
2.1.1. Windowsパッケージ作成	7
2.1.2. Windowsパッケージ修正	20
2.1.3. Linuxパッケージ作成	22
2.1.4. Linuxパッケージ修正	34
2.1.5. パッケージの登録/修正の終了	35
2.2. 登録データの削除	36
3. Webコンソールの説明	38
3.1. 「イメージ一覧」画面	38
3.2. シナリオの「パッケージ」タブ	41
3.3. 「パッケージ実行結果一覧」画面	45
3.3.1. パッケージ実行結果の詳細表示	47
改版履歴	49

はじめに

対象読者と目的

「一括ファイル配置ガイド」は、WebSAM DeploymentManager(以下、DPM)の一括ファイル配置機能を利用するユーザを対象に、一括ファイル配置機能に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。

本書の構成

- ・ 1 一括ファイル配置を使用する方法について説明します。
- ・ 2 イメージビルダについて説明します。
- ・ 3 Webコンソールについて説明します。
- ・ 改版履歴

1. 一括ファイル配置

本章では、一括ファイル配置を使用する方法について説明します。

一括ファイル配置は、複数台のサーバやクライアントに対して、任意のフォルダ/ファイルを配置し、配置前/配置後に任意のコマンドを実行できます。また、配置するフォルダ/ファイルに対してアクセス権を設定できます。

配置するファイルを配置対象のイメージとして DPM に登録し、その登録されたイメージを対象マシンに配置します。「1.1 イメージを作成、登録する」から「1.6 パッケージの実行結果を確認する」まで順に操作を行ってください。

1.1. イメージを作成、登録する

配置するファイルのイメージを作成して DPM に登録します。

1.1.1. 一括ファイル配置のパッケージを登録する

一括ファイル配置のパッケージをDPMに登録/修正する方法を説明します。

注:

- 一括ファイル配置のパッケージを作成/修正する場合は、イメージビルダを使用してください。PackageDescriber は、一括ファイル配置のパッケージの作成/修正に対応していません。
-

イメージビルダを使用して、一括ファイル配置のパッケージの作成/修正を行います。「2 イメージビルダ」を参照してください。

1.2. シナリオを作成する

シナリオの作成方法について説明します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「設定」メニューの「シナリオ追加」をクリックします。

メインウィンドウに「シナリオ追加」画面が表示されますので、「パッケージ」タブを選択し、一括ファイル配置の各項目を設定します。項目の詳細は、「3.2 シナリオの「パッケージ」タブ」を参照してください。

1.3. シナリオを割り当てる

シナリオの割り当て方法については、「オペレーションガイド 3.6.3 シナリオを割り当てる」を参照してください。

1.4. シナリオを実行する

シナリオの実行方法については、「オペレーションガイド 3.6.4 シナリオを実行する」を参照してください。

1.5. シナリオの実行結果を確認する

シナリオの実行結果の確認方法については、「オペレーションガイド 3.6.5 シナリオの実行結果を確認する」を参照してください。

1.6. パッケージの実行結果を確認する

シナリオにより実行されたパッケージの実行結果の確認方法について説明します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「パッケージ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「パッケージ実行結果一覧」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「パッケージ実行結果一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「3.3 「パッケージ実行結果一覧」画面」を参照してください。

2. イメージビルダ

本章では、一括ファイル配置を使用する場合のイメージビルダについて説明します。

2.1. パッケージの登録/修正

一括ファイル配置のパッケージを登録/修正します。以下の手順で行います。

- (1) 管理サーバに DPM サーバをインストールしたユーザでログオンします。
- (2) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
Administrator 以外のユーザで OS にログオンしている場合は、管理者として実行してください。
- (3) イメージビルダが起動されますので、「パッケージの登録/修正」をクリックします。
- (4) 「パッケージの登録/修正」画面が表示されますので、「ファイル」メニューから、以下のそれぞれのメニューをクリックしてパッケージを作成/修正します。

Windowsパッケージを作成する場合 →Windowsパッケージ作成
詳細は、「2.1.1 Windowsパッケージ作成」を参照してください。

Windowsパッケージを修正する場合 →Windowsパッケージ修正
詳細は、「2.1.2 Windowsパッケージ修正」を参照してください。

Linuxパッケージを作成する場合 →Linuxパッケージ作成
詳細は、「2.1.3 Linuxパッケージ作成」を参照してください。

Linuxパッケージを修正する場合 →Linuxパッケージ修正
詳細は、「2.1.4 Linuxパッケージ修正」を参照してください。

2.1.1. Windows パッケージ作成

「Windowsパッケージ作成」メニュー項目を選択した場合、「Windowsパッケージ作成」画面が表示されます。「Windowsパッケージ作成」画面の各タブで各項目を設定します。

「基本」、「実行設定」、「対応OSと言語」、「依存情報」、「識別情報」タブの設定について、説明します。

- 「基本」タブ
「Windowsパッケージ作成」画面の「基本」タブをクリックし、各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所(タイプ)は、「ファイル」を選択してください。

Windowsパッケージ作成

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

* パッケージ ID :

Local-

会社名 :

リリース日付 : (YYYY/MM/DD)

パッケージ概要 :

タイプ :

ファイル

緊急度 :

一般

OK

キャンセル

基本	
パッケージID (入力必須)	パッケージにつけるID番号を入力します。入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字と以下の半角記号です。 - _
会社名	パッケージを発行する発行元の名称を入力します。入力できる文字数は127Byte以内です。
リリース日付	パッケージをリリースした日付を入力します。入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力します。 無効な値を入力すると、無視される、または自動的に補正されます。
パッケージ概要	パッケージの概要情報を入力します。入力できる文字数は、511Byte以内です。
タイプ	サービスパック/HotFix、アプリケーション、またはファイルをリストボックスから選択します。一括ファイル配置のパッケージを作成する場合、タイプに「ファイル」を選択してください。
緊急度	パッケージの緊急度(4種類)を設定します。 タイプに「ファイル」を選択した場合は、「一般」(固定)になります。

- 「実行設定」タブ
「Windowsパッケージ作成」画面の「実行設定」タブをクリックし、各項目を設定します。

The screenshot shows the 'Windows Package Creation' dialog box with the 'Execution Settings' tab selected. The dialog has a title bar with a close button (X) and a tab bar with four tabs: 'Basic', 'Execution Settings', 'Target OS and Language', 'Dependency Information', and 'Identification Information'. The 'Execution Settings' tab contains a table with four columns: 'Distribution Source', 'Distribution Destination', 'Username', and 'Access Rights'. To the right of the table are three buttons: 'Folder Add', 'File Add', and 'Delete'. Below the table is a checkbox labeled 'Up'. At the bottom of the tab, there are two large text areas labeled 'Before Execution Command' and 'After Execution Command'. Between these areas are two sets of up/down arrow buttons. Below each text area are three buttons: 'Add', 'Edit', and 'Delete'. At the very bottom of the dialog are 'OK' and 'Cancel' buttons.

配信元	配信先	ユーザ名	アクセス権限

☐ 上書き

実行前コマンド

実行後コマンド

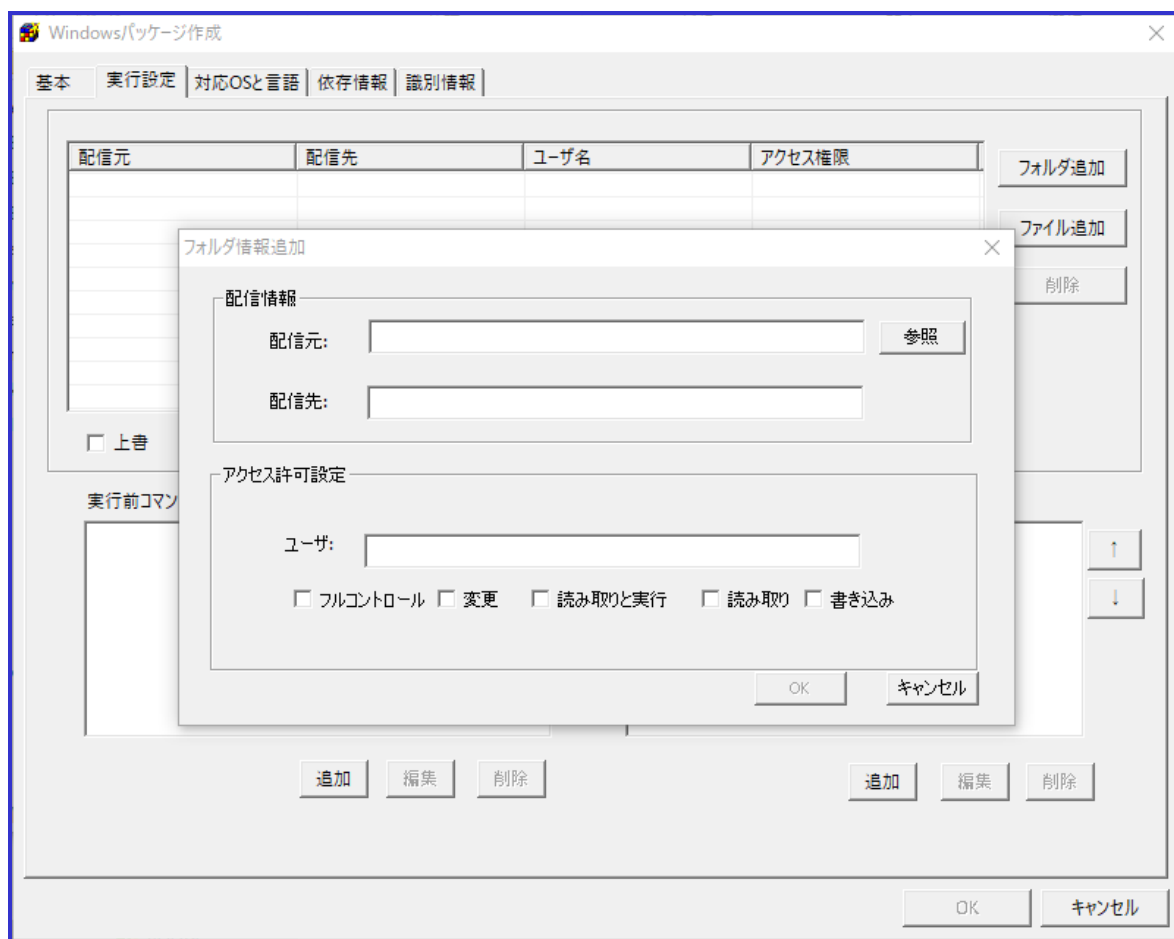
追加 編集 削除

追加 編集 削除

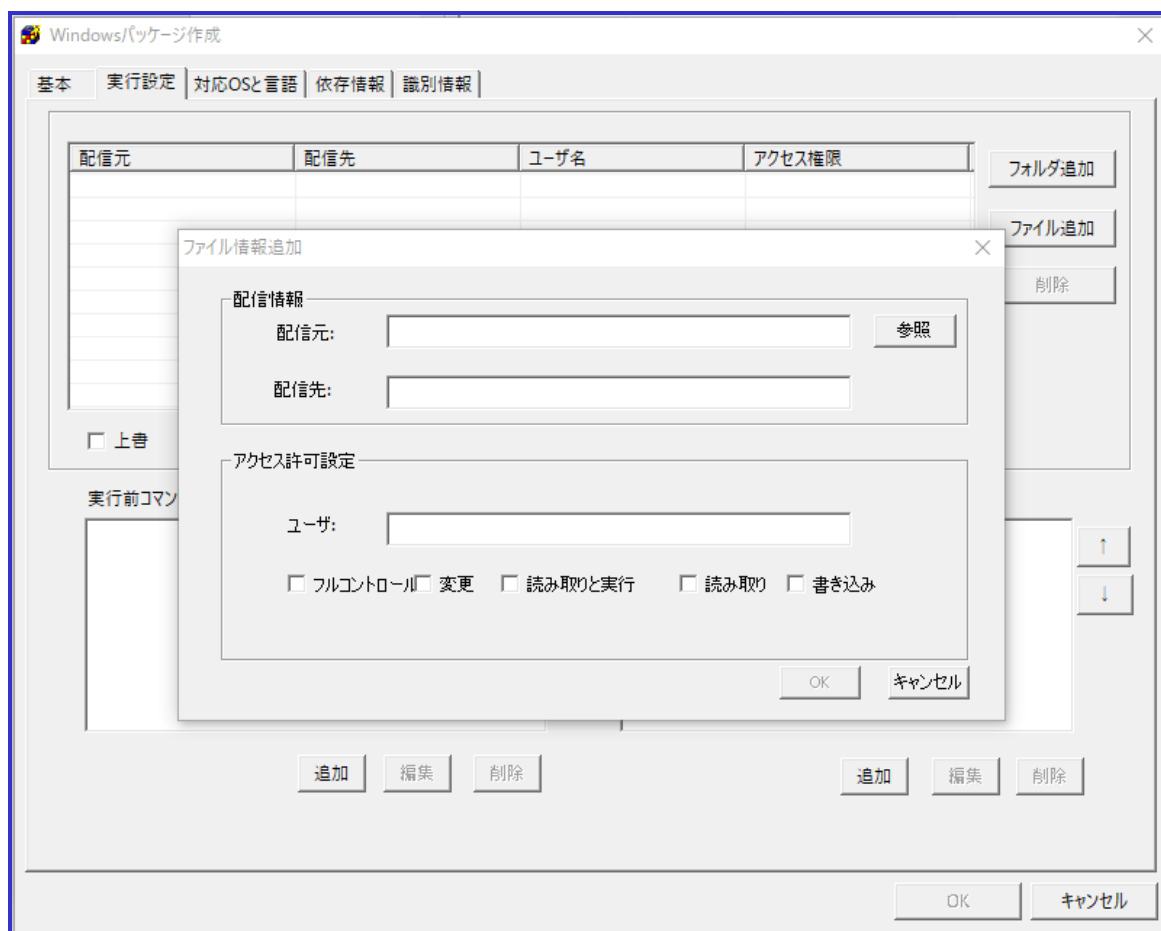
OK キャンセル

「フォルダ追加」、または「ファイル追加」ボタンをクリックすると、配信元と配信先の入力やアクセス許可設定を行う画面が表示されます。フォルダ/ファイルの配信元と配信先を入力し、配信フォルダ配下のファイルや配信ファイルに対して、アクセス権限を設定します。

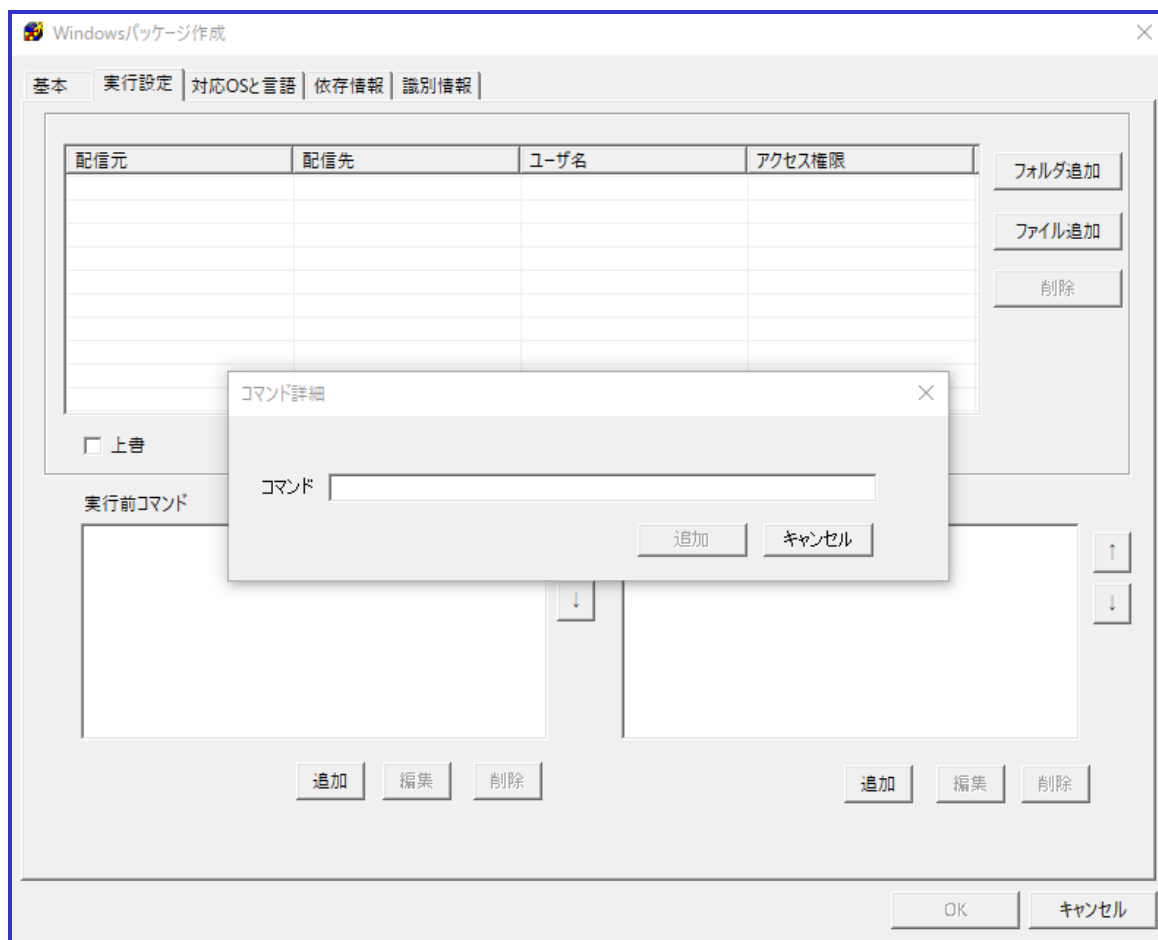
- ・ 「フォルダ追加」ボタンをクリックした場合



- ・ 「ファイル追加」ボタンをクリックした場合




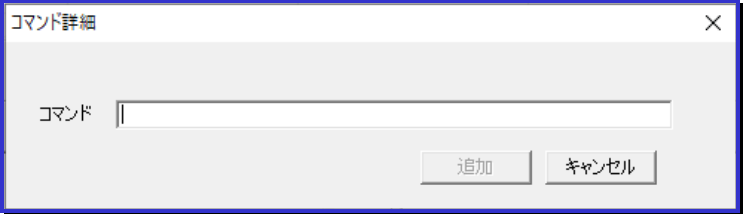
「実行前コマンド」、または「実行後コマンド」の「追加」ボタンをクリックすると、パッケージの実行前/実行後コマンドの入力画面が表示されます。パッケージの実行前/実行後に実施するコマンドを入力します。



実行設定	
フォルダ情報追加	
配信情報	
配信元 (入力必須) ※1、※2、※3	管理対象マシンへ配信する管理サーバ上のフォルダを絶対パスで指定します。フォルダ配下のすべてのファイルが配信対象です。 「参照」ボタンから選択する、またはテキストボックスに直接入力してフォルダを指定できます。「参照」ボタンからフォルダを選択することを推奨します。テキストボックスに手動で入力する場合は、実際に存在するフォルダパスを指定してください。 入力については、以下に注意してください。 ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号は使用できません。 ・フォルダパスは「/」を区切り文字として使用し、必ず最後に「/」を入力してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダを指定してください。
配信先 (入力必須) ※3	管理対象マシンへ配信するファイルを格納するフォルダを絶対パスで入力します。 入力については、以下に注意してください。 ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号は使用できません。 ・フォルダパスは「/」を区切り文字として使用し、必ず最後に「/」を入力してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダを指定してください。
アクセス許可設定 ※4	
ユーザ	配信フォルダ配下のファイルに対して、アクセス権限を設定するユーザ名を入力します。 アクセス許可設定を行うと、配信されるフォルダ配下のファイルはすべて同じパーミッションに設定されます。 存在するユーザ名を指定してください。 入力できる文字数は、256Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 “ * + , . / : ; < = > ? @ [¥]
フルコントロール	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「フルコントロール」の権限を設定します。
変更	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「変更」の権限を設定します。
読み取りと実行	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「読み取りと実行」の権限を設定します。
読み取り	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「読み取り」の権限を設定します。
書き込み	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「書き込み」の権限を設定します。

OK		「OK」ボタンをクリックすると、配信元と配信先のフォルダ情報が実行設定画面に表示されます。
ファイル情報追加		
配信情報		
配信元 (入力必須) ※1、※2、※3	管理対象マシンへ配信する管理サーバ上のファイルを絶対パスで指定します。 「参照」ボタンから選択する、またはテキストボックスに直接入力してファイルを指定できます。「参照」ボタンからファイルを選択することを推奨します。テキストボックスに手動で入力する場合は、実際に存在するファイルパスを指定してください。 入力については、以下に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号は使用できません。 ・指定するファイルパスは「/」を区切り文字として使用してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダのファイルを指定してください。 	
配信先 (入力必須) ※3	配信先となる管理対象マシンのフォルダパスを絶対パスで入力します。 入力については、以下に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号は使用できません。 ・フォルダパスは「/」を区切り文字として使用し、必ず最後に「/」を入力してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダのファイルを指定してください。 	
アクセス許可設定 ※4		
ユーザ	配信ファイルに対して、アクセス権を設定するユーザ名を入力します。 存在するユーザ名を指定してください。 入力できる文字数は、256Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号です。ただし、以下の半角記号は使用できません。 “ * + , . / : ; < = > ? @ [¥] ”	
フルコントロール	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「フルコントロール」の権限を設定します。	
変更	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「変更」の権限を設定します。	
読み取りと実行	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「読み取りと実行」の権限を設定します。	
読み取り	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「読み取り」の権限を設定します。	
書き込み	チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ」に指定したユーザに対して、「書き込み」の権限を設定します。	
OK		「OK」ボタンをクリックすると、配信元のファイルと配信先のフォルダ情報が実行設定画面に表示されます。

削除	配信情報を選択し、「削除」ボタンをクリックすると、選択した配信情報が削除されます。
上書	「上書」チェックボックスにチェックを入れると、配信元と同じ名前のファイルが配信先に存在する場合に、ファイルが上書きされます。 このチェックボックスにチェックを入れずに、配信先に同じ名前のファイルが存在した場合、ファイルが上書きされません。
実行前コマンド ※5	
実行前コマンド	ファイル配信開始前に実行するコマンド一覧を表示します。 表示順(上から順番)にコマンドが実行されます。
追加	<p>「追加」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。実行するコマンドを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。入力したコマンドが「実行前コマンド」の一覧に追加されます。</p>  <p>入力できる文字数は、1023Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。 なお、入力したコマンドはWindows OSから実行されるため、260Byte以内を推奨します。(261～1023Byteの文字を入力した場合、OSにより実行されない可能性があります。) 例) コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合 cmd /c mkdir D:¥DPM</p>
編集	「実行前コマンド」の一覧から編集するコマンドを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「コマンド詳細」画面が表示されます。コマンドを編集し、「修正」ボタンをクリックしてください。
削除	「実行前コマンド」の一覧から削除するコマンドを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、コマンドが削除されます。
↑	「実行前コマンド」の一覧から、順番を変更するコマンドを選択し、「↑」ボタンをクリックすると、一つ上に移動します。
↓	「実行前コマンド」の一覧から順番を変更するコマンドを選択し、「↓」ボタンをクリックすると、一つ下に移動します。
実行後コマンド ※5	
実行後コマンド	ファイル配信完了後に実行するコマンド一覧を表示します。 表示順(上から順番)にコマンドが実行されます。

追加	<p>「追加」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。実行するコマンドを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。入力したコマンドが「実行後コマンド」の一覧に追加されます。</p>  <p>入力できる文字数は、1023Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。 なお、入力したコマンドはWindows OSから実行されるため、260Byte以内を推奨します。(261～1023Byteの文字を入力した場合、OSにより実行されない可能性があります。) 例) コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合 cmd /c mkdir D:¥DPM</p>
編集	<p>「実行後コマンド」の一覧から編集するコマンドを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「コマンド詳細」画面が表示されます。コマンドを編集し、「修正」ボタンをクリックしてください。</p>
削除	<p>「実行後コマンド」の一覧から削除するコマンドを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、コマンドが削除されます。</p>
↑	<p>「実行後コマンド」の一覧から、順番を変更するコマンドを選択し、「↑」ボタンをクリックすると、一つ上に移動します。</p>
↓	<p>「実行後コマンド」の一覧から順番を変更するコマンドを選択し、「↓」ボタンをクリックすると、一つ下に移動します。</p>

- ※1 配信情報を複数選択する場合は、以下に注意してください。
- ・「フォルダ情報追加」の「配信元」に同じ名前のフォルダパスを指定しないでください。
 - ・「ファイル情報追加」の「配信元」に同じ名前のファイルパスを指定しないでください。
- ※2 圧縮前のファイルサイズの合計が2GByteを超えないようにしてください。
- ※3 例えば、ファイルXXX.batが管理サーバのc:¥aに格納されており、「配信先」にc:¥bを指定する場合は、以下のように指定してください。
- － 「フォルダ情報追加」の場合、「配信元」は「c:/a/」、「配信先」は「c:/b/」と指定
 - － 「ファイル情報追加」の場合、「配信元」は「c:/a/XXX.bat」、「配信先」は「c:/b/」と指定
- ※4
- ・ 「アクセス許可設定」を指定しない場合、配信されるファイルのアクセス権として以下が設定されます。
 - － Windowsシステムのデフォルトのアクセス権
 - ・ 配信先に同じ名前のファイルが存在する場合、ファイルの上書き結果に関係なく、配信先のファイルに対して、指定したアクセス権、またはWindowsシステムのデフォルトのアクセス権が付与されます。

- ※5
- ・ 実行前/実行後コマンドに、管理対象マシン上のパスが通っていないコマンドやファイルを指定する場合、絶対パスを指定する必要があります。
 - ・ 実行後コマンドに、一括ファイル配置で配信したファイルを指定する場合、絶対パスを指定する必要があります。例えば、配信したファイルが「c:\¥b¥XXX.bat」の場合、実行後コマンドの追加で「cmd /c c:\¥b¥XXX.bat」を指定してください。
 - ・ 実行前/実行後コマンドの戻り値は、成功=0、失敗=0以外になるようにしてください。戻り値が0以外の場合、コマンド実行が失敗と認識され、処理が中止します。実行結果に関係なく次の処理を実施する場合は常に戻り値0を返してください。

「Windowsパッケージ作成」画面の「対応OSと言語」タブをクリックし、各項目を設定します。

The screenshot shows the "Windows パッケージ作成" (Windows Package Creation) window. It has a standard Windows-style title bar with a close button. The main area contains several tabs: "基本" (Basic), "実行設定" (Execution Settings), "対応OSと言語" (Supported OS and Language), "依存情報" (Dependency Information), and "識別情報" (Identification Information). The "基本" tab is active. At the top, there are two dropdown menus: "OS" set to "ALL OS" and "言語:" (Language:) set to "All Language". To their right are "追加" (Add) and "削除" (Delete) buttons. Below these is a table with two columns: "* OS名" (OS Name) and "* 言語名" (Language Name). The first row contains "ALL OS" and "All Language". Below the table are two sections: "ベースとなるサービスパック:" (Base service pack:) and "吸収されるサービスパック:" (Service packs absorbed:). Each section has a dropdown menu, "追加" (Add), and "削除" (Delete) buttons. At the bottom right are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

対応OSと言語	
OS	一括ファイル配置のパッケージを適用するOSを選択します。 「ALL OS」がデフォルトとして選択されます。
言語	一括ファイル配置のパッケージを適用するOSの言語を選択します。 「All Language」がデフォルトとして選択されます。
追加	選択した「OS」、「言語」を追加します。
削除	選択した「OS」、「言語」を削除します。
ベースとなるサービスパック	HotFixが適用できる前提となるサービスパックを指定します。 一括ファイル配置のパッケージの場合、指定できません。
追加	選択した「ベースとなるサービスパック」を追加します。
削除	選択した「ベースとなるサービスパック」を削除します。
吸収されるサービスパック	次期サービスパックを指定します。「ベースとなるサービスパック」と併用して使用します。 一括ファイル配置のパッケージの場合、指定できません。
追加	選択した「吸収されるサービスパック」を追加します。
削除	選択した「吸収されるサービスパック」を削除します。

- 「依存情報」タブ
「Windowsパッケージ作成」画面の「依存情報」タブをクリックし、各項目を設定します。「依存情報」の各項目については、「リファレンスガイド ツール編 1.4.1 Windowsパッケージ作成」の「「依存情報」タブ」を参照してください。
- 「識別情報」タブ
「Windowsパッケージ作成」画面の「識別情報」タブをクリックし、各項目を設定します。「識別情報」の各項目については、「リファレンスガイド ツール編 1.4.1 Windowsパッケージ作成」の「「識別情報」タブ」を参照してください。
- 必要な情報を入力した後「OK」ボタンをクリックすると、パッケージが作成されます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、入力情報はすべて破棄され「Windows パッケージ作成」画面を閉じます。

以上で、Windows パッケージ作成に必要な情報の入力は完了です。

「Windows パッケージ作成」画面の「OK」ボタンをクリックして、Windows パッケージを作成してください。

注:

- 続けてパッケージを作成できます。続けて作成する場合は、次のパッケージの情報を入力して再度「OK」ボタンをクリックしてください。作成作業を完了する場合は、「完了」ボタンをクリックしてください。(一度「OK」ボタンをクリックした後は、「キャンセル」ボタンは「完了」ボタンになります。)
-

2.1.2. Windows パッケージ修正

(1) 「Windowsパッケージ修正」メニューを選択すると、以下の画面が表示されます。



番号	パッケージID	MS 番号	緊急度	タイプ	概要	対応OSと言語
1	Local-asddddddddd...		一般	ファイル		ALL OS,All Language
2	Local-filetest		一般	ファイル		ALL OS,All Language
3	Local-filetest2		一般	ファイル	file	ALL OS,All Language
4	Local-otherosApp		一般	アプリケーション		Other OS,All Language
5	Local-win_fileaaaa...		一般	ファイル		ALL OS,All Language
6	Local-WindowsCh...		一般	アプリケーション	Change Boot Order P...	Windows Server 2012...
7	Local-WindowsCh...		一般	アプリケーション	Change Host Name ...	Windows Vista Busin...
8	Local-WindowsCh...		一般	アプリケーション	Change IP Package	Windows Vista Busin...
9	Local-WindowsCh...		一般	アプリケーション	Change Password Pa...	Windows Vista Busin...

(2) 「Windowsパッケージ選択」画面から「タイプ」が「ファイル」のパッケージを選択し、「修正」ボタンをクリックします。

(3) 以下の画面が表示されますので各タブの画面でそれぞれ修正してください。修正できる項目については、以下のとおりです。各タブの画面については、「2.1.1 Windowsパッケージ作成」を参照してください。

- ・「基本」タブ→「パッケージ ID」、「タイプ」、および「緊急度」以外は修正できます。
- ・「実行設定」タブ→各項目は修正できません。
- ・「対応 OS と言語」タブ→全項目修正できます。
- ・「依存情報」タブ→全項目修正できます。
- ・「識別情報」タブ→全項目修正できます。

Windowsパッケージ修正

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

* パッケージ ID : Local- filetest

会社名 : リリース日付 : (YYYY/MM/DD)

パッケージ概要 :

タイプ : ファイル 緊急度 : 一般

OK キャンセル

2.1.3. Linux パッケージ作成

「Linuxパッケージ作成」メニュー項目を選択した場合、「Linuxパッケージ作成」画面が表示されます。

- 「基本」タブ
「Linuxパッケージ作成」画面の「基本」タブをクリックし、各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所(タイプ)は、「ファイル」を選択してください。

Linuxパッケージ作成

基本

実行設定

* パッケージ ID :

Local-

会社名 :

リリース日付 : (YYYY/MM/DD)

パッケージ概要 :

タイプ :

ファイル

緊急度 :

一般

OK

キャンセル

基本	
パッケージID (入力必須)	パッケージにつけるID番号を入力します。入力できる文字数は、63Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字と以下の半角記号です。 - _
会社名	パッケージを発行する発行元の名称を入力します。入力できる文字数は127Byte以内です。
リリース日付	パッケージをリリースした日付を入力します。入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力します。 無効な値を入力すると、無視される、または自動的に補正されます。
パッケージ概要	パッケージの概要情報を入力します。入力できる文字数は、511Byte以内です。

タイプ	Linuxパッチ、アプリケーション、またはファイルをリストボックスから選択します。 一括ファイル配置のパッケージを作成する場合、タイプに「ファイル」を選択してください。
緊急度	パッケージの緊急度を選択します。変更できません。

■ 「実行設定」タブ

「Linuxパッケージ作成」画面の「実行設定」タブをクリックし、各項目を設定します。

The screenshot shows the 'Linux Package Creation' dialog box with the 'Execution Settings' tab selected. The dialog has a title bar with a close button. Below the title bar are two tabs: 'Basic' and 'Execution Settings'. The 'Execution Settings' tab contains a table with four columns: 'Distribution Source', 'Distribution Destination', 'Directory Permissions', and 'Access Permissions'. To the right of the table are three buttons: 'Folder Add', 'File Add', and 'Delete'. Below the table is a checkbox labeled 'Up'. At the bottom of the tab are two large text areas for 'Pre-execution Command' and 'Post-execution Command', each with 'Add', 'Edit', and 'Delete' buttons. The bottom of the dialog has 'OK' and 'Cancel' buttons.

配信元	配信先	ディレクトリパーミッション	アクセス権限

☐ 上書き

実行前コマンド

実行後コマンド

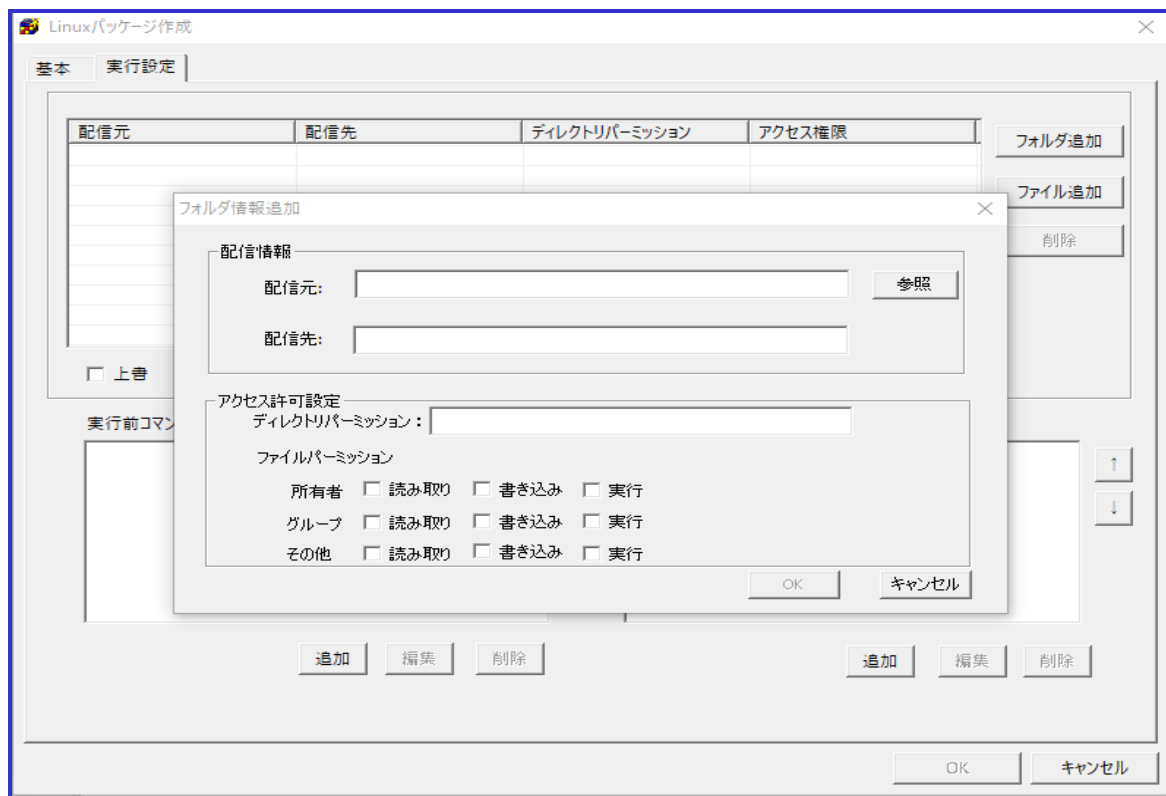
追加 編集 削除

追加 編集 削除

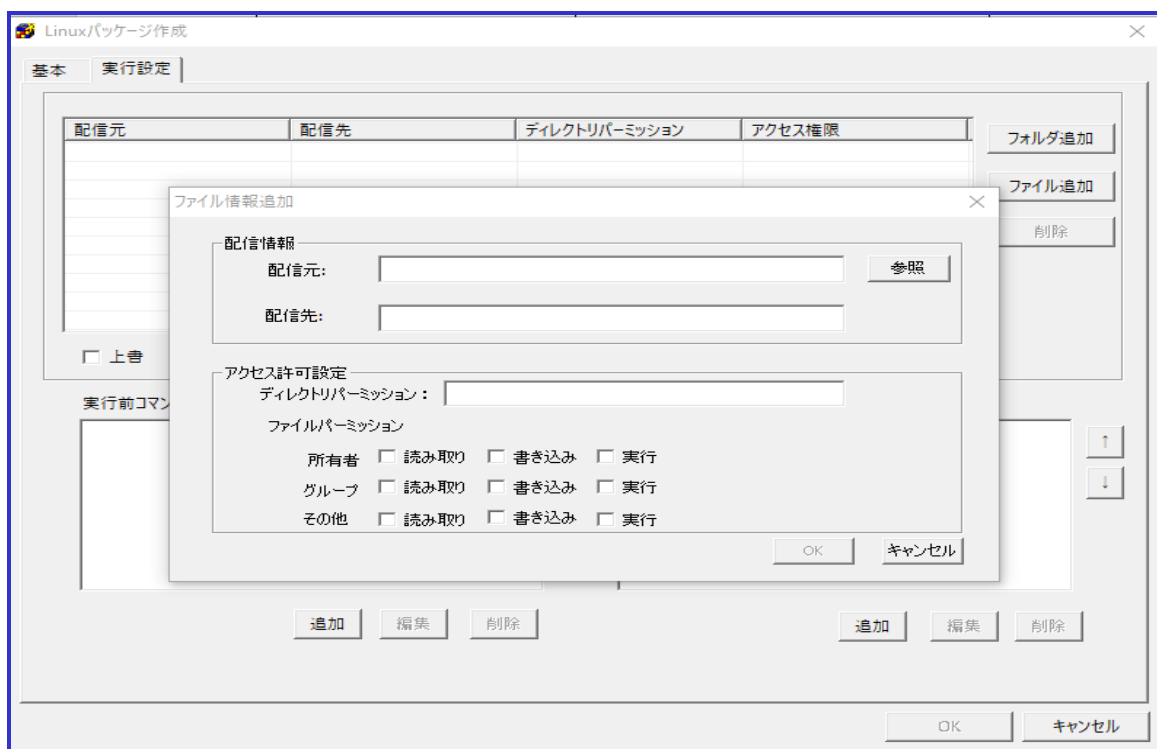
OK キャンセル

「フォルダ追加」、または「ファイル追加」ボタンをクリックすると、配信元と配信先の入力やアクセス許可設定を行う画面が表示されます。フォルダ/ファイルの配信元と配信先を入力し、配信フォルダ配下のファイルや配信ファイルに対して、アクセス権限を設定します。

- ・ 「フォルダ追加」ボタンをクリックした場合

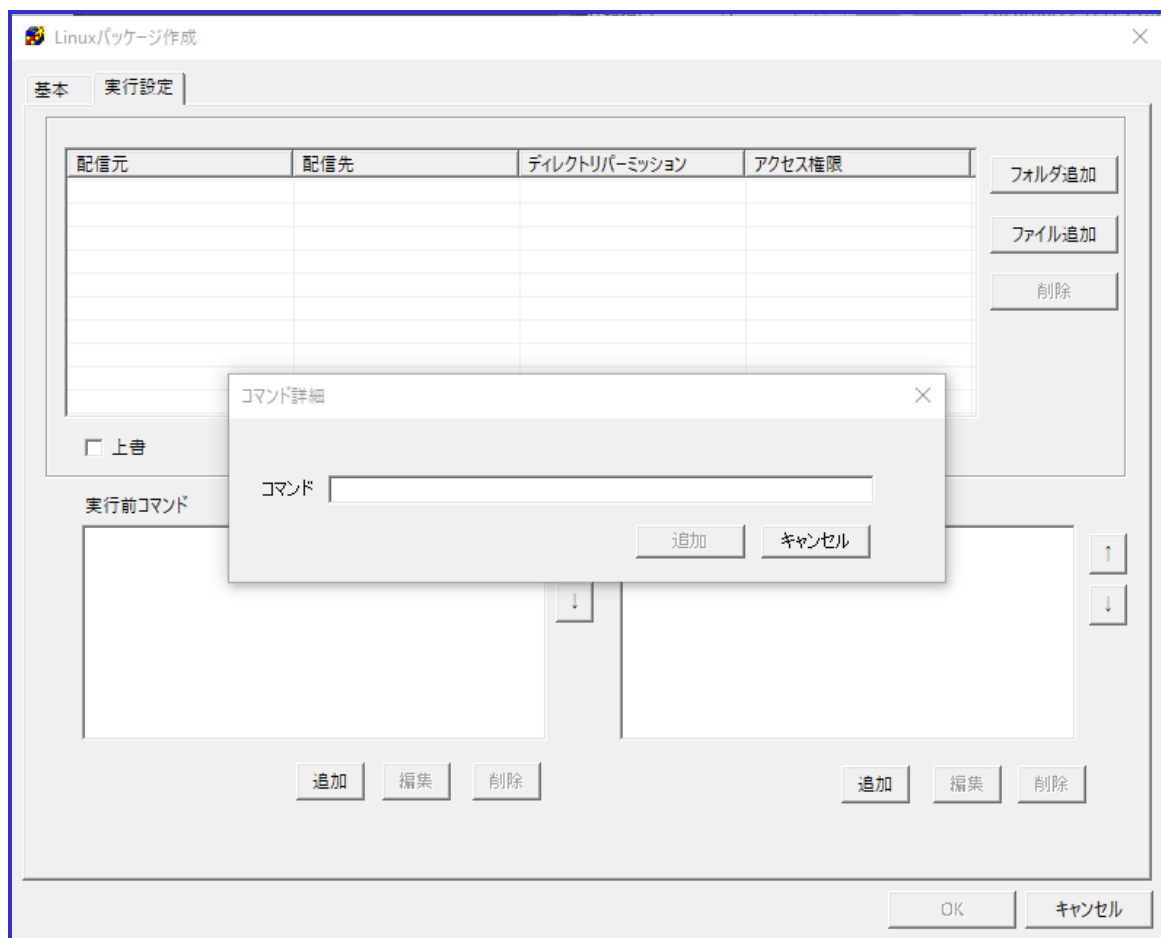


- ・ 「ファイル追加」ボタンをクリックした場合



アクセス許可設定を設定し、「OK」ボタンをクリックすると、「実行設定」タブのアクセス権限に数字が表示されます。

「実行前コマンド」、または「実行後コマンド」の「追加」ボタンをクリックすると、パッケージの実行前/実行後コマンドの入力画面が表示されます。パッケージの実行前/実行後に実施するコマンドを入力してください。

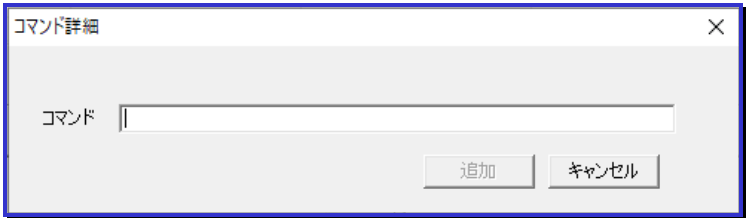


実行設定	
フォルダ情報追加	
配信情報	
配信元 (入力必須) ※1、※2、※3	管理対象マシンへ配信する管理サーバ上のフォルダを絶対パスで指定します。フォルダ配下のすべてのファイルが配信対象です。 「参照」ボタンから選択する、またはテキストボックスに直接入力してフォルダを指定できます。「参照」ボタンからフォルダを選択することを推奨します。テキストボックスに手動で入力する場合は、実際に存在するフォルダパスを指定してください。 入力については、以下に注意してください。 ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 \$ & ' () ; ` ~ ・フォルダパスは「/」を区切り文字として使用し、必ず最後に「/」を入力してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダを指定してください。
配信先 (入力必須) ※3	管理対象マシンへ配信するファイルを格納するフォルダを絶対パスで入力します。 入力については、以下に注意してください。 ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 \$ & ' () ; ` ~ ・フォルダパスは「/」を区切り文字として使用し、必ず最後に「/」を入力してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダを指定してください。
アクセス許可設定	
※4	
ディレクトリパーミッション	ディレクトリパーミッションを設定します。入力できる文字は8進数(0~7)です。入力は、「xxx」の形式で入力してください。 配信先にディレクトリが存在しない場合、作成されたディレクトリに指定したディレクトリパーミッションが付与されます。配信先に同じ名前のディレクトリが存在する場合、ディレクトリパーミッションは変更しません。

<p>ファイルパーミッション</p>	<p>ファイルパーミッションを設定します。配信されるフォルダ配下のファイルにはすべて同じパーミッションが付与されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「所有者」 <ul style="list-style-type: none"> －「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「読み取り」の権限を設定します。 －「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「書き込み」の権限を設定します。 －「実行」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「実行」の権限を設定します。 ・「グループ」 <ul style="list-style-type: none"> －「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「読み取り」の権限を設定します。 －「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「書き込み」の権限を設定します。 －「実行」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「実行」の権限を設定します。 ・「その他」 <ul style="list-style-type: none"> －「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「読み取り」の権限を設定します。 －「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「書き込み」の権限を設定します。 －「実行」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「実行」の権限を設定します。
<p>OK</p>	<p>「OK」ボタンをクリックすると、配信元と配信先のフォルダ情報が実行設定画面に表示されます。</p>
<p>ファイル情報追加</p>	
<p>配信情報</p>	
<p>配信元 (入力必須) ※1、※2、※3</p>	<p>管理対象マシンへ配信する管理サーバ上のファイルを絶対パスで指定します。</p> <p>「参照」ボタンから選択する、またはテキストボックスに直接入力してファイルを指定できます。「参照」ボタンからファイルを選択することを推奨します。テキストボックスに手動で入力する場合は、実際に存在するファイルパスを指定してください。</p> <p>入力については、以下に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 \$ & ' () ; ` ~ ・指定するファイルパスは「/」を区切り文字として使用してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダのファイルを指定してください。

	<p>配信先 (入力必須) ※3</p>	<p>配信先となる管理対象マシンのフォルダパスを絶対パスで入力します。 入力については、以下に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力できる文字数は、255Byte以内です。 ・使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/半角記号/全角文字です。ただし、Windowsで禁止された記号と以下の半角記号は使用できません。 \$ & ' () ; ` ~ ・フォルダパスは「/」を区切り文字として使用し、必ず最後に「/」を入力してください。 ・環境変数には対応していません。 ・リダイレクトされないフォルダのファイルを指定してください。
	<p>アクセス許可設定 ※4</p>	
	<p>ディレクトリパーミッション</p>	<p>ディレクトリパーミッションを設定します。入力できる文字は8進数(0~7)です。入力は、「xxx」の形式で入力してください。 配信先にディレクトリが存在しない場合、作成されたディレクトリに指定したディレクトリのパーミッションが付与されます。配信先に同じ名前のディレクトリが存在する場合、ディレクトリのパーミッションは変更しません。</p>
	<p>ファイルパーミッション</p>	<p>ファイルパーミッションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「所有者」 <ul style="list-style-type: none"> －「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「読み取り」の権限を設定します。 －「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「書き込み」の権限を設定します。 －「実行」チェックボックスにチェックを入れると、ファイルの所有者(root)に対して、「実行」の権限を設定します。 ・「グループ」 <ul style="list-style-type: none"> －「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「読み取り」の権限を設定します。 －「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「書き込み」の権限を設定します。 －「実行」チェックボックスにチェックを入れると、所有者と同じグループのユーザに対して、「実行」の権限を設定します。 ・「その他」 <ul style="list-style-type: none"> －「読み取り」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「読み取り」の権限を設定します。 －「書き込み」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「書き込み」の権限を設定します。 －「実行」チェックボックスにチェックを入れると、その他のユーザ(所有者、および所有者と同じグループのユーザ以外)に対して、「実行」の権限を設定します。
	<p>OK</p>	<p>「OK」ボタンをクリックすると、配信元と配信先のフォルダ情報が実行設定画面に表示されます。</p>
	<p>削除</p>	<p>配信情報を選択し、「削除」ボタンをクリックすると、選択した配信情報が削除されます。</p>

上書	<p>「上書」チェックボックスにチェックを入れると、配信元と同じ名前のファイルが配信先に存在する場合、ファイルが上書きされます。</p> <p>チェックを入れずに、配信先に同じ名前のファイルが存在した場合、ファイルが上書きされません。</p>
実行前コマンド ※5	
実行前コマンド	<p>ファイル配信開始前に実行するコマンド一覧を表示します。表示順(上から順番)にコマンドが実行されます。</p>
追加	<p>「追加」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。実行するコマンドを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。入力したコマンドが「実行前コマンド」の一覧に追加されます。</p> <div data-bbox="746 683 1497 900" data-label="Image"> </div> <p>入力できる文字数は、260Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。</p> <p>なお、入力したコマンドはLinuxから実行されるため、260Byte以内を推奨します。</p> <p>例)</p> <p> コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合 mkdir -m 777 ./test</p>
編集	<p>「実行前コマンド」の一覧から編集するコマンドを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「コマンド詳細」画面が表示されます。コマンドを編集し、「修正」ボタンをクリックしてください。</p>
削除	<p>「実行前コマンド」の一覧から削除するコマンドを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、コマンドが削除されます。</p>
↑	<p>「実行前コマンド」の一覧から、順番を変更するコマンドを選択し、「↑」ボタンをクリックすると、一つ上に移動します。</p>
↓	<p>「実行前コマンド」の一覧から順番を変更するコマンドを選択し、「↓」ボタンをクリックすると、一つ下に移動します。</p>
実行後コマンド ※5	
実行後コマンド	<p>ファイル配信完了後に実行するコマンド一覧を表示します。表示順(上から順番)にコマンドが実行されます。</p>

追加	<p>「追加」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。実行するコマンドを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。入力したコマンドが「実行後コマンド」の一覧に追加されます。</p>  <p>入力できる文字数は、260Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。 なお、入力したコマンドはLinuxから実行されるため、260Byte以内を推奨します。 例) コマンドプロンプトからコマンドを実行する場合 mkdir /user/test</p>
編集	<p>「実行後コマンド」の一覧から編集するコマンドを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「コマンド詳細」画面が表示されます。コマンドを編集し、「修正」ボタンをクリックしてください。</p>
削除	<p>「実行後コマンド」の一覧から削除するコマンドを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、コマンドが削除されます。</p>
↑	<p>「実行後コマンド」の一覧から、順番を変更するコマンドを選択し、「↑」ボタンをクリックすると、一つ上に移動します。</p>
↓	<p>「実行後コマンド」の一覧から順番を変更するコマンドを選択し、「↓」ボタンをクリックすると、一つ下に移動します。</p>

- ※1 配信情報を複数選択する場合は、以下に注意してください。
- ・「フォルダ情報追加」の「配信元」に同じ名前のフォルダを指定しないでください。
 - ・「ファイル情報追加」の「配信元」に同じ名前のファイルを指定しないでください。
- ※2 圧縮前のファイルサイズの合計が2GByteを超えないようにしてください。
- ※3 例えば、ファイルXXX.shが管理サーバのc:\aに格納されており、配信先に/opt/DPMを指定する場合は、下のように指定してください。
- －「フォルダ情報追加」の場合、「配信元」は「c:/a/」、「配信先」は「/opt/DPM/」と指定
 - －「ファイル情報追加」の場合、「配信元」は「c:/a/XXX.sh」、「配信先」は「/opt/DPM/」と指定
- ※4
- ・「アクセス許可設定」を指定しない場合、配信されるディレクトリ/ファイルのアクセス権はシステムにより自動的に設定されます。新規作成されたディレクトリのパーミッションはumaskにより決定されます。配信されたファイルのパーミッションはumaskとアクセス権の値で決定されます。
 例：ディレクトリパーミッションとファイルパーミッションを指定しない場合、システムのデフォルト値は以下のようになります。
 umask=022
 この場合、新規作成されたディレクトリのパーミッションは755になり、配信されたファイルのパーミッションは644になります。
 - ・配信先に同じ名前のファイルが存在する場合、ファイルの上書き結果に関係なく、配信先のファイルに対して、指定したアクセス権、またはシステムのデフォルトのアクセス権限が付与されます。

- ※5
- ・ 実行前/実行後コマンドに、管理対象マシン上のパスが通っていないコマンドやファイルを指定する場合、絶対パスを指定する必要があります。
 - ・ 実行後コマンドに、一括ファイル配置で配信したファイルを指定する場合、絶対パスを指定する必要があります。例えば、配信したファイルが「/opt/DPM/XXX.sh」の場合、実行後コマンドの追加で「sh /opt/DPM/XXX.sh」を指定してください。
 - ・ 実行前/実行後コマンドの戻り値を、成功=0、失敗=0以外になるようにしてください。戻り値が0以外の場合、コマンド実行が失敗と認識され、処理が中止します。実行結果に関係なく次の処理を実施する場合は常に戻り値0を返してください

以上で、Linuxパッケージ作成に必要な情報の入力は完了です。

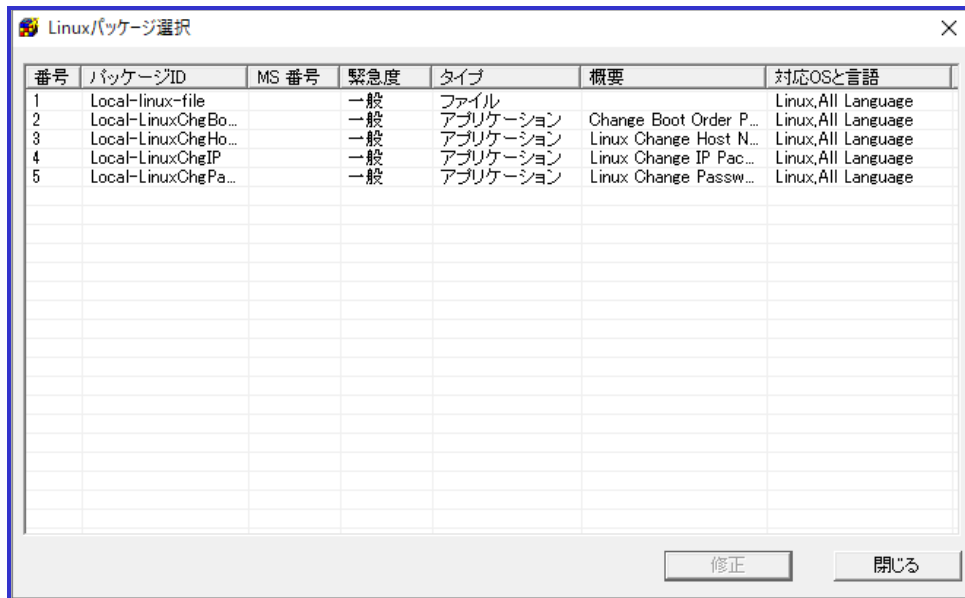
「Linuxパッケージ作成」画面の「OK」ボタンをクリックして、Linuxパッケージを作成してください。

注:

- 続けてパッケージを作成できます。続けて作成する場合は、次のパッケージの情報を入力して再度「OK」ボタンをクリックしてください。作成作業を完了する場合は、「完了」ボタンをクリックしてください。(一度「OK」ボタンをクリックした後は、「キャンセル」ボタンは「完了」ボタンになります。)
-

2.1.4. Linux パッケージ修正

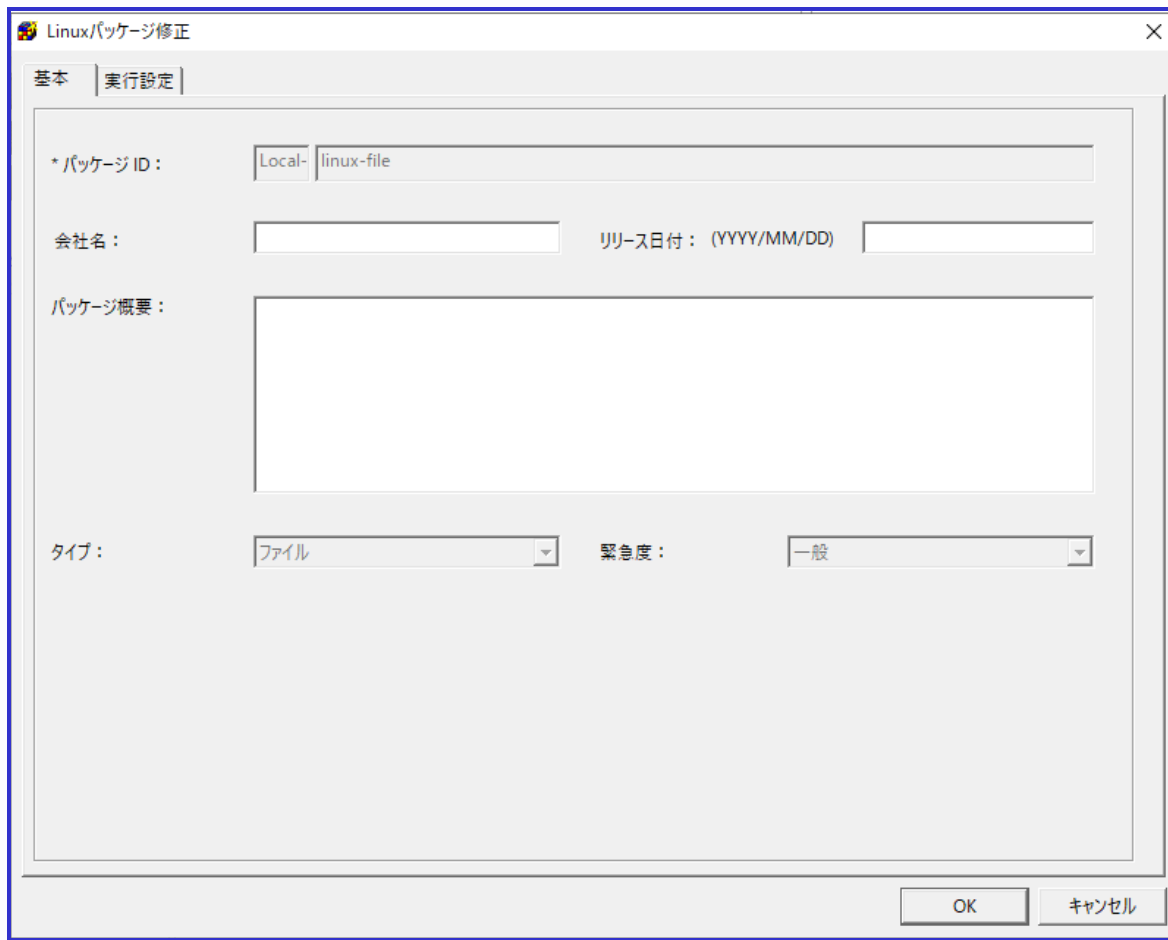
(1) 「Linux パッケージ修正」メニュー項目を選択すると、以下の画面が表示されます。



(2) 「Linux パッケージ選択」画面から「タイプ」が「ファイル」のパッケージを選択し、「修正」ボタンをクリックします。

(3) 「Linux パッケージ修正」画面が表示されますので、各タブの画面でそれぞれ修正してください。修正できる項目については、以下のとおりです。各タブの画面については、「2.1.3 Linux パッケージ作成」を参照してください。

- ・「基本」タブ→「パッケージID」、「タイプ」、および「緊急度」以外は、修正できます。
- ・「実行設定」タブ→各項目は修正できません。



The image shows a Windows-style dialog box titled "Linux/パッケージ修正" (Linux/Package Correction). It has two tabs: "基本" (Basic) and "実行設定" (Execution Settings). The "基本" tab is active. The form contains the following fields:

- * パッケージ ID: A text box with "Local-" and "linux-file" separated by a vertical line.
- 会社名: A text box.
- リリース日付: (YYYY/MM/DD) A text box.
- パッケージ概要: A large text area.
- タイプ: A dropdown menu with "ファイル" (File) selected.
- 緊急度: A dropdown menu with "一般" (General) selected.

At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

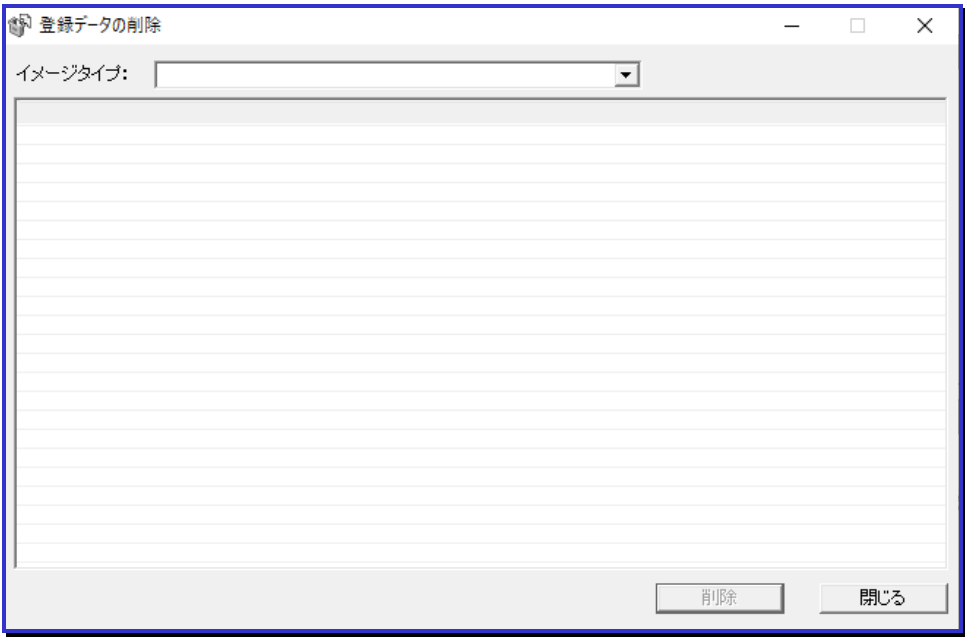
2.1.5. パッケージの登録/修正の終了

「終了」メニューをクリックすると、「パッケージの登録/修正」画面が閉じます。

2.2. 登録データの削除

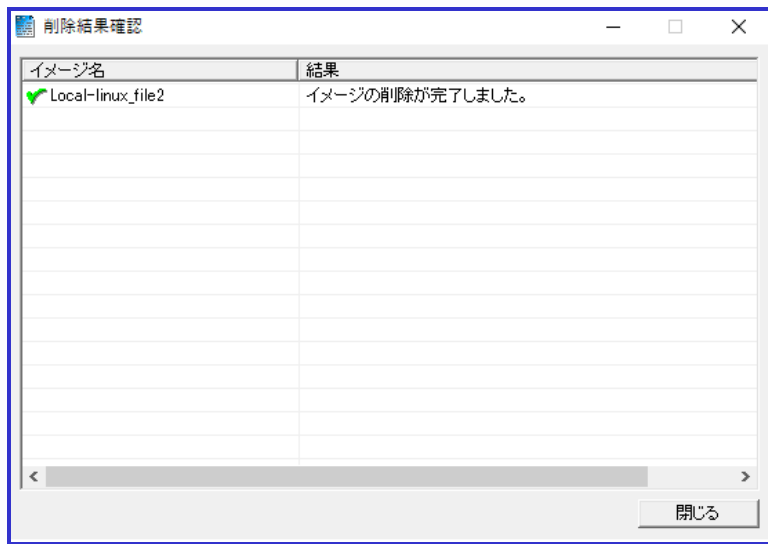
登録データを削除します。以下の手順で行います。

- (1) 管理サーバにDPMサーバをインストールしたユーザでログオンします。
- (2) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
Administrator以外のユーザでOSにログオンしている場合は、管理者として実行してください。
- (3) イメージビルダが起動されますので、「登録データの削除」をクリックします。
- (4) 以下の画面が表示されますので、削除するパッケージを選択してください。



登録データの削除		
	イメージタイプ	イメージタイプを選択すると、該当するイメージリストが表示されます。「ファイル」を選択してください。

削除	<p>イメージタイプからいずれかのイメージファイルを選択した場合のみ、「削除」ボタンが有効になります。複数のイメージファイルを選択して削除できます。「削除」ボタンをクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると、イメージファイルを削除し、以下の画面が表示されます。</p>
閉じる	<p>「登録データの削除」画面を閉じます。</p>



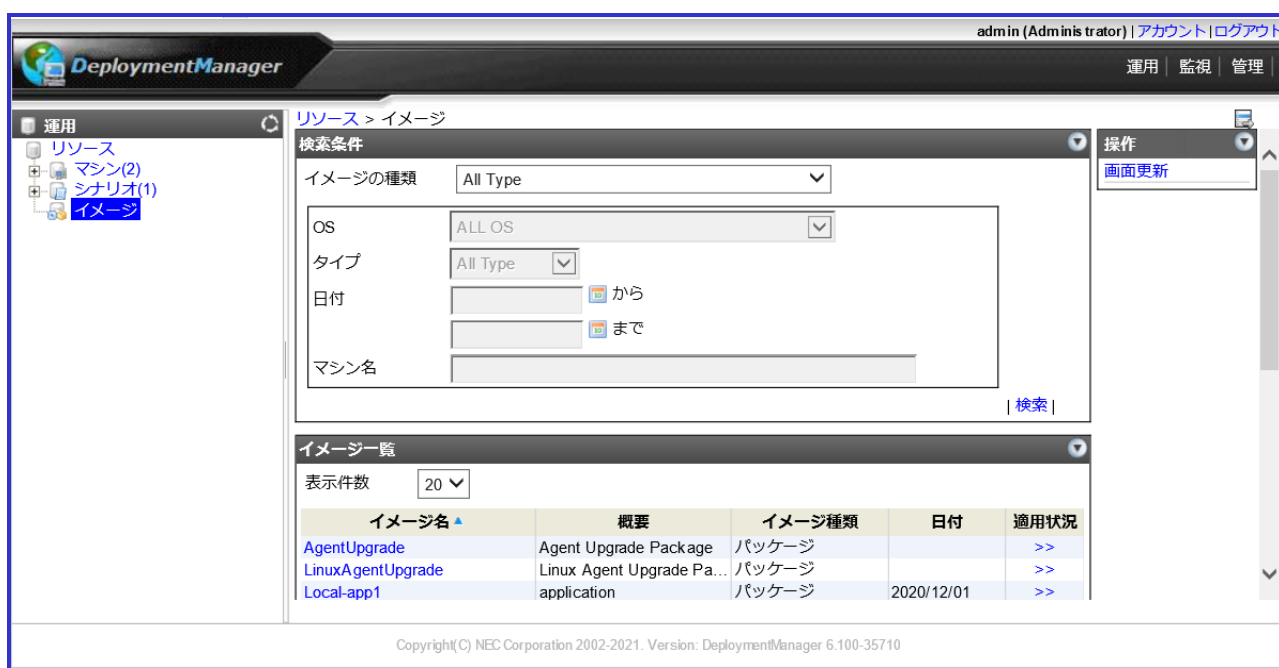
3. Web コンソールの説明

本章では、一括ファイル配置に関連がある Web コンソールの各名称、および概要について説明します。

3.1. 「イメージ一覧」画面

イメージビルダで作成される「ファイル」タイプのパッケージの詳細情報を説明します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「イメージ」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「検索条件」、「イメージ一覧」グループボックスが表示されます。



- (4) 「イメージの種類」に「パッケージ」を選択し、「タイプ」に「ファイル」を選択して、「検索」ボタンをクリックします。検索結果が、「イメージ一覧」グループボックスに表示されます。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

DeploymentManager

運用 | 監視 | 管理

運用

リソース > イメージ

検索条件

イメージの種類: パッケージ

OS: ALL OS

タイプ: ファイル

日付: から まで

マシン名:

| 検索 |

操作


画面更新

イメージ一覧

表示件数: 20

イメージ名	概要	イメージ種類	日付	適用状況
Local-file1_win	windows file test	パッケージ	2020/11/25	>>
Local-filetest		パッケージ	2021/01/05	>>
Local-filetest2		パッケージ	2021/01/05	>>

Copyright (C) NEC Corporation 2002-2021. Version: DeploymentManager 6.100-35710

検索条件	
イメージの種類	検索するイメージの種類を選択します。 「パッケージ」を選択してください。
OS	OSの種類で検索する場合は、検索するOSの種類を選択します。 デフォルトは、「ALL OS」です。
タイプ	タイプで検索する場合は、パッケージの種類を選択します。 「ファイル」を選択してください。
日付	日付で検索する場合は、検索する開始日と終了日を入力します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 ・開始日のみを指定する場合は、開始日以降を検索条件として検索します。 ・終了日のみを指定する場合は、終了日以前を検索条件として検索します。 ・開始日と終了日を指定する場合は、指定した期間内を検索条件として検索します。
マシン名	「タイプ」に「ファイル」を選択した場合、入力できません。
検索	「検索」ボタンをクリックすると、指定した検索条件によりイメージを検索します。 検索結果は、「イメージ一覧」グループボックスに表示されます。

イメージ一覧	
表示件数	イメージの表示件数が選択できます。
イメージ名	イメージ名を表示します。 イメージ名をクリックしてイメージの基本情報が確認できます。 「パッケージ」については、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.17.1 パッケージイメージの詳細情報」を参照してください。
概要	イメージの概要を表示します。
イメージ種類	イメージの種類を表示します。
日付	イメージの作成日を表示します。

	適用状況	<p>「適用状況」欄に「>>」が表示されます。</p> <p>「>>」をクリックすると、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」画面が表示されます。画面については、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.17.2 パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」を参照してください。</p>
--	------	---

3.2. シナリオの「パッケージ」タブ

一括ファイル配置のシナリオの「パッケージ」タブを設定します。

The screenshot shows the Deployment Manager web interface. The top navigation bar includes the logo, user information (admin (Administrator)), and links for account and logout. The main menu on the left lists '運用' (Operation), 'リソース' (Resources), 'マシン(2)' (Machines), 'シナリオ(2)' (Scenarios), 'Built-in Scenarios (17/17)', 'ScenarioGroup01 (1/1)', and 'イメージ' (Image). The breadcrumb trail is 'リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加'. The main content area is titled 'シナリオ追加' (Add Scenario) and contains several sections: 'グループ名' (Group Name) and 'シナリオ名' (Scenario Name) input fields; tabs for 'HW設定' (HW Settings), 'OS' (OS), 'パッケージ' (Package), 'バックアップリスト' (Backup List), and 'オプション' (Options); a 'パッケージ' (Package) section with a table of packages; '実行タイミング設定' (Execution Timing Settings); '実行後動作設定' (Post-execution Action Settings); and '配信条件設定' (Distribution Condition Settings). The 'パッケージ' table has columns for '名前' (Name), '種別' (Type), and '実行パラメータ' (Execution Parameters). It lists two packages: 'Local-winfile' and 'Local-linux_file', both of type 'アプリケーションファイル' (Application File). The '実行タイミング設定' section has two radio buttons: '配信後すぐにパッケージを実行' (Execute package immediately after distribution) and '次回起動時にパッケージを実行' (Execute package at next startup). The '実行後動作設定' section has a checkbox for 'パッケージ実行後に再起動を行う' (Restart after package execution). The '配信条件設定' section has two radio buttons: 'ユニキャストでデータを送信する' (Send data via unicast) and 'マルチキャストでデータを送信する' (Send data via multicast). It includes input fields for '最大ターゲット数(1-1000)' (Maximum number of targets), '最大待ち時間(1-1440分)' (Maximum wait time), 'マルチキャストIPアドレス(パッケージ)' (Multicast IP address), and 'マルチキャストTTL'. A note explains that Time to Live (TTL) is the number of routers that multicast traffic can pass through. There is also a checkbox for '最大転送レート' (Maximum transfer rate) with a value of 500 MB/分. The bottom right corner has 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加

シナリオ追加

グループ名: ScenarioGroup01

シナリオ名:

HW設定 | OS | **パッケージ** | バックアップリスト | オプション

パッケージ

名前	種別	実行パラメータ
Local-winfile	アプリケーションファイル	
Local-linux_file	アプリケーションファイル	

実行タイミング設定

☒ 配信後すぐにパッケージを実行

☐ 次回起動時にパッケージを実行

実行後動作設定

☐ パッケージ実行後に再起動を行う

配信条件設定

☒ ユニキャストでデータを送信する

☐ マルチキャストでデータを送信する

最大ターゲット数(1-1000):

最大待ち時間(1-1440分): 10

マルチキャストIPアドレス(パッケージ): 239.192.0.1

マルチキャストTTL: 16

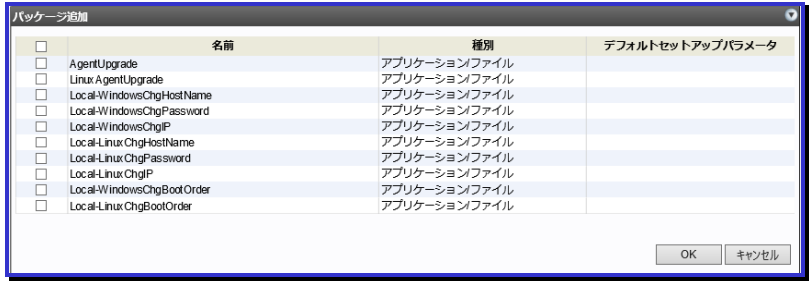
>>Time to live(TTL)とは、ネットワーク上でマルチキャストトラフィックが通過するルータの数です。

☐ 最大転送レート: 500 MB/分

OK キャンセル

パッケージ

パッケージ

名前	実行するパッケージの名前を表示します。
種別	<p>実行するパッケージの種別を表示します。</p> <p>以下の2種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスパック/HotFix/Linuxパッチ ・アプリケーション/ファイル <p>一括ファイル配置のパッケージの場合、「アプリケーション/ファイル」を表示します。</p>
実行パラメータ	<p>実行するパッケージのセットアップパラメータを設定します。</p> <p>一括ファイル配置のパッケージの場合、入力できません。</p>
「アクション」リンク	<p>・「追加」をクリックすると、「パッケージ追加」グループボックスが表示されます。</p>  <p>・追加するパッケージの左端のチェックボックスにチェックを入れて、複数のパッケージを選択して追加できます。追加したパッケージは、「パッケージ」グループボックスに表示されます。</p> <p>なお、一括ファイル配置を利用する場合、追加するパッケージは、イメージビルダを使用して作成してください。</p> <p>・パッケージは、アプリケーション/ファイルの種別で8個まで追加できます。</p> <p>・「削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているパッケージを削除します。</p> <p>複数チェックを入れると、複数のパッケージをまとめて削除できます。</p>
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているパッケージすべてにチェックが入ります。
【↑】	左端のチェックボックスにチェックを入れたパッケージを一つ上に移動します。
【↓】	左端のチェックボックスにチェックを入れたパッケージを一つ下に移動します。
実行タイミング設定	
配信後すぐにパッケージを実行	配信後すぐにパッケージを実行する場合は、ラジオボタンを選択し、設定します。

<p>次回起動時にパッケージを実行</p>	<p>次回起動時にパッケージを実行する場合に選択します。 再起動前の管理対象マシンは、シナリオの「パッケージ」タブ-「実行タイミング設定」の「次回起動時にパッケージを実行」を指定したシナリオを合計100個実行することができます。101個以上のシナリオを実行する場合は、管理対象マシンを再起動してください。再起動することにより新たに100個のシナリオを実行することができます。 なお、「次回起動時にパッケージを実行」を選択した場合は、下記に注意してください。 ・「オプション」タブの「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れた場合は、アップデート完了後に管理対象マシンの電源がOFFされるのではなく、データの配信後に電源がOFFされます。 ・管理対象マシン上で、次回起動時のアップデート中にアップデート、またはアプリケーションのシナリオ実行を行った場合は、シナリオ実行エラーとなります。シナリオ実行する場合は、アップデートの完了後に再度行ってください。</p>
<p>実行後動作設定</p>	
<p>パッケージ実行後に再起動を行う</p>	<p>「パッケージ実行後に再起動を行う」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージ実行後に管理対象マシンを再起動します。 「パッケージ」タブのみを設定したシナリオの場合は、「パッケージ実行後に再起動を行う」の設定が優先され、パッケージ実行後に管理対象マシンを再起動します。</p>
<p>配信条件設定</p>	
<p>ユニキャストでデータを送信する</p>	<p>ユニキャストでデータを送信する場合に選択します。デフォルトは、「ユニキャストでデータを送信する」です。 ルータを越えた別セグメントのネットワークにアップデートを行う際など、マルチキャストのデータが送信できない場合についても、「ユニキャストでデータを送信する」を選択してください。 なお、「ユニキャストでデータを送信する」にチェックを入れているシナリオは、マルチキャストIPの設定を行う必要はありません。</p>
<p>マルチキャストでデータを送信する</p>	<p>マルチキャストでデータを送信する場合に選択します。以下の項目が有効になります。(※1) ・最大ターゲット数(1-1000) ・最大待ち時間(1-1440分) ・マルチキャストIPアドレス(パッケージ) ・マルチキャストTTL ・最大転送レート</p>
<p>最大ターゲット数(1-1000)</p>	<p>シナリオを同時実行するマシン数の最大値を設定します。 本項目で指定した数のマシンに対して、シナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始されます。 「1～1000」の範囲で設定できます。 デフォルトは、「空白」です。</p>
<p>最大待ち時間(1-1440分)</p>	<p>マルチキャストでデータを送信する場合は、最大待ち時間を設定します。「1～1440」分の範囲で設定できます。 デフォルトは、「10」分です。 「最大待ち時間」が経過すると、ファイル転送待ちの状態となっている管理対象マシンのみアップデートが開始されます。</p>

		マルチキャストIPアドレス(パッケージ) (設定必須)	マルチキャストIPアドレスを設定します。 マルチキャストIPとは、マルチキャスト時に指定するIPアドレスです。マルチキャストIPアドレスは、「224.0.0.0～239.255.255.255」の間で指定できます。ただし、「239.192.0.0～239.255.255.255」の間を指定することを推奨します。(※1) サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーション/一括ファイル配置のパッケージ実行で異なるシナリオを複数同時に実行する場合は、それぞれのシナリオでマルチキャストIPアドレスが重複しないように設定してください。
		マルチキャストTTL (入力必須)	マルチキャストTTLの数を設定します。「1～127」の範囲で設定できます。デフォルトは、「16」です。(※2)
		最大転送レート (設定必須)	「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオの転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～99999999」の範囲で設定できます。デフォルトは、「500」MByte/分です。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。使用している環境に合わせて設定を行ってください。

- ※1
- マルチキャストとは、単一のパケットを使用し、同一データを複数のマシンに対して同時に送信する通信方法です。これにより、LAN 内のトラフィックを軽減できます。
 - パッケージの実行は、シナリオの実行を指示後、実行準備の完了したマシンが最大ターゲット数と同じ台数になるか、最大待ち時間が経過するまで待機します。待機中のマシンに対してただちにパッケージを実行する機能はありません。
 - 最大ターゲット数、最大待ち時間の両方とも指定しない場合は、シナリオ実行後、他のマシンを待たずに即実行します。
- ※2 TTLとは、パケットの生存期間をあらわします。この値は、ルータを越えるたびに1ずつ減らされていき、0になった時点で破棄されます。1を指定すると、パケットはルータを越えることができなくなります。

注:

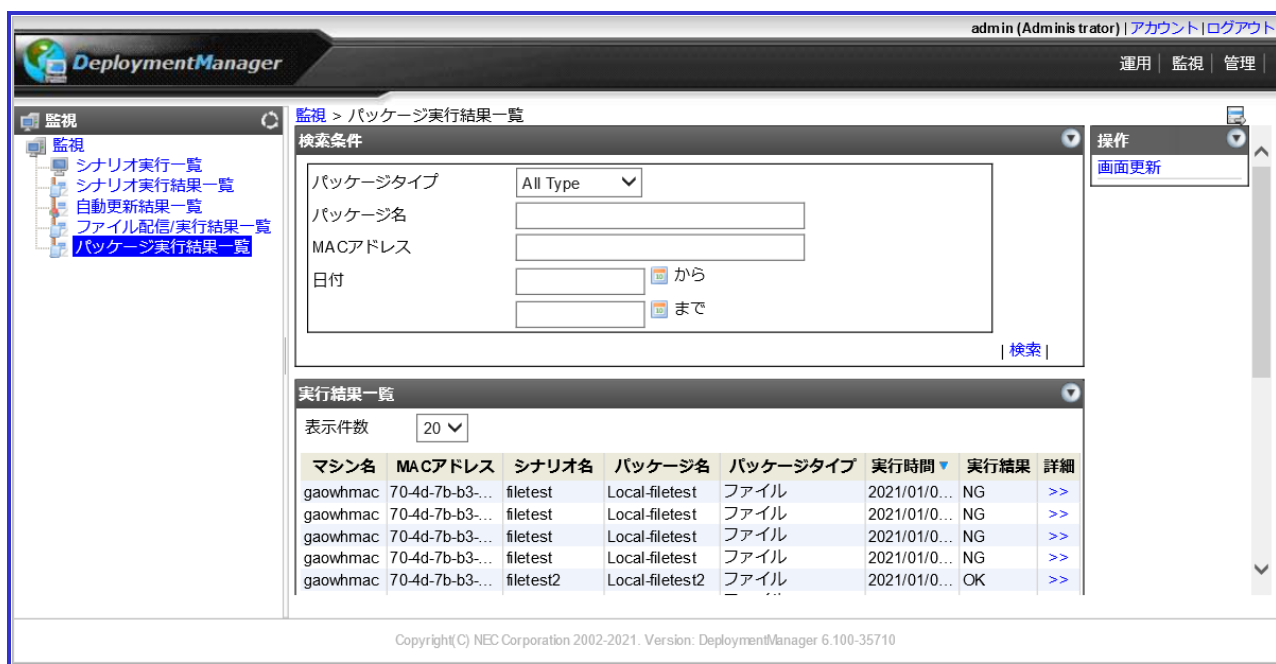
- 「パッケージ」タブで設定を行った場合は、「バックアップ/リストア」タブの「リストア」を設定できません。
- サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイルと同時にアプリケーション/一括ファイル配置のパッケージ実行も設定した場合は、サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイルのパッケージ実行の後にアプリケーション/一括ファイル配置のパッケージを実行します。

3.3. 「パッケージ実行結果一覧」画面


「パッケージ実行結果一覧」画面では、パッケージ実行結果の一覧、およびパッケージ実行結果の詳細を表示します。

「パッケージ実行結果一覧」画面は、以下の手順で表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「パッケージ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「パッケージ実行結果一覧」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「パッケージ実行結果一覧」グループボックスが表示されます。



検索条件	
パッケージタイプ	<p>パッケージタイプで検索する場合は、パッケージの種類を選択します。以下から選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ All Type ・ HotFix ・ サービスパック ・ Linuxパッチ ・ アプリケーション ・ ファイル <p>デフォルトは、「All Type」です。 一括ファイル配置の場合、「ファイル」を選択します。</p>
パッケージ名	<p>パッケージ名で検索する場合は、パッケージ名を入力します。 入力できる文字数は、69Byte以内です。使用できる文字は、半角英数字と以下の半角記号です。</p> <p>—</p>
MACアドレス	<p>MACアドレスで検索する場合は、MACアドレスを入力します。 入力できる文字種は、16進数 (0～9/a～f/A～F) です。入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。</p>

日付	<p>日付で検索する場合は、検索する開始日と終了日を入力します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。</p> <p>入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開始日のみを指定する場合は、開始日以降を検索条件として検索します。 ・ 終了日のみを指定する場合は、終了日以前を検索条件として検索します。 ・ 開始日と終了日を指定する場合は、指定した期間内を検索条件として検索します。
検索	<p>「検索」ボタンをクリックすると、指定した検索条件により実行結果を検索します。 検索結果は、「実行結果一覧」グループボックスに表示されます。</p>
実行結果一覧	
表示件数	パッケージ実行の表示件数が選択できます。
マシン名	<p>マシン名を表示します。</p> <p>管理対象マシンの識別名を表示します。識別名がない場合、管理対象マシンのマシン名を表示します。</p>
MACアドレス	<p>パッケージ実行の管理対象マシンのMACアドレスを表示します。</p> <p>以下の優先順位で表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プライマリ MAC アドレス 2) 通信 MAC アドレス 3) その他の MAC アドレス
シナリオ名	パッケージ実行のシナリオ名を表示します。
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
パッケージタイプ	<p>パッケージタイプを表示します。</p> <p>以下の5種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HotFix ・ サービスパック ・ アプリケーション ・ ファイル ・ Linuxパッチ <p>一括ファイル配置の場合、「ファイル」が表示されます。</p>
実行時間	<p>パッケージの実行完了時間を表示します。</p> <p>※パッケージの実行結果を受信した実際の時間を表示します。</p>
実行結果	<p>パッケージ実行結果によって、以下の2種類を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OK : パッケージ実行成功 ・ NG : パッケージ実行失敗
詳細	<p>「>>」をクリックすると、「パッケージ実行結果の詳細表示」画面が表示されます。画面については、「3.3.1 パッケージ実行結果の詳細表示」を参照してください。</p>

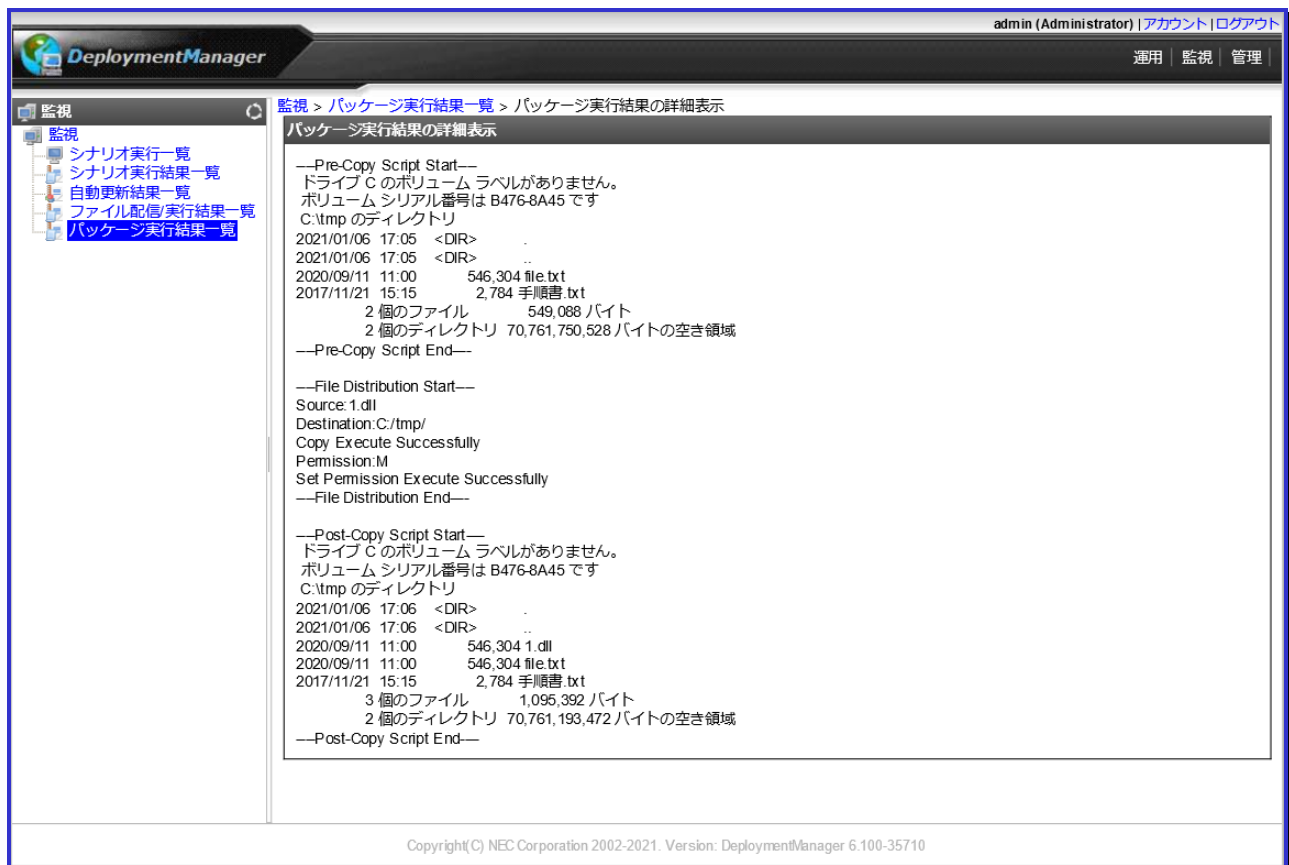
注:

- 「パッケージ実行結果一覧」画面には、「実行タイミング設定」に「配信後すぐにパッケージを実行」を選択したパッケージ情報のみが表示されます。
- 一括ファイル配置を利用する場合、パッケージに設定される実行前/実行後コマンドの戻り値が「0」でない場合、該当するパッケージの実行が終了します。実行前/実行後コマンドの戻り値に十分注意してください。

3.3.1. パッケージ実行結果の詳細表示

パッケージ実行結果の詳細表示を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「パッケージ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「パッケージ実行結果一覧」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「パッケージ実行結果一覧」グループボックスが表示されます。
- (4) 「検索条件」グループボックスに検索条件を指定して、「検索」ボタンをクリックします。
- (5) 「実行結果一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。
- (6) メインウィンドウに「パッケージ実行結果の詳細表示」グループボックスが表示されます。



パッケージ実行結果の詳細表示	
パッケージタイプが「ファイル」の場合	<p>一括ファイル配置のパッケージ実行結果詳細を表示します。以下の形式で表示されます。</p> <pre> ----Pre-Copy Script Start---- 実行前コマンド結果 ----Pre-Copy Script End---- ----File Distribution Start---- ファイルのコピー、権限変更結果 ----File Distribution End---- ----Post-Copy Script Start---- 実行後コマンド結果 ----Post-Copy Script End----</pre>
パッケージタイプが「ファイル」でない場合	<p>パッケージの実行結果詳細を表示します。実行したパッケージの返却値が表示されます。</p>

改版履歴

◆ Rev.001 2021.04:新規作成